



今日はですね、ニッポン列島どこに逃げても最高温度 40℃ということで、オリンピックに参加していた選手が「日本の猛暑は災害だ」と言いまして、テニスのある選手が審判に「これで死んだら責任取れるんか?!」と言って、試合時間が夕方に移されたなどということもニュースに出ていました。皆さん、命の危険を冒してご来場頂きましたことを、本当に心から感謝しております。今日は、今日本を取り巻いている国際情勢について、聖書預言の観点から考えたいと思っています。

私が 30 代の頃からずいぶん可愛がってくださる、日本を代表する外交評論家がおられます。ご健在で、今も活動が素晴らしくて、保守言論人の横綱みたいな人物ですけど、実は伊能忠敬（いのう ただたか）の直系なんですね。徒歩で日本中を歩いて、正確な日本の地図を描いた人。その人の子孫です。更に、この人のいとこはオノ・ヨーコ。ジョン・レノンの奥さんですね。また、彼は福田内閣における外交顧問ということで、外交の裏の世界で活動されていました。

この方が 若かった私をずいぶん可愛がってくださって、あるとき家に呼んで、「今日、あなたに会わせたい人がいるから」と。奥様はプロのチェンバロ奏者です。家にグランドピアノ置いてるのは見たことあるけど。チェンバロ、すごいなと思って。チェンバロが鳴っている家に入って部屋の扉を開けたら、イスラエルの大使夫妻が座ってました。「驚かそうと思ってね！」って、前もって言って。そんな言葉。そして「ディナーだから、その間は高原君、ヘブライ語でやれよ。」ずいぶん困ったことを覚えています。私は喋れませんから。

そんな重いユーモアを持っている方で、よくジョークを語ってくれたんです。「あるとき、神がこの世界を造ろうと考えて『さあ、日本を造ろう』と言った時、そばに天使がいた。その天使に、『これから日本を造ろう。最も美しい国土に最も美しい食物を生えさせ、最も勤勉な国民を置くのだ。』 そしたら天使が『神よ、それは他の民族に対して、あまりにも不公平ではないでしょうか。えこひいきではないでしょうか。偏ってます。』 そこで神は言われた。『うむ。だから、隣に中国を置くんだ。』」つまり、“日本が持っている様々な良い点を全部帳消しにしてしまうような迷惑国家、それが中国である”ということ、この方は言いたかったのでしょう。

私は今日、中国のことを やはり触れざるを得ない。これからの世界を考えると触れざるを得ないのですが、中国の人たちのことを批判しているわけではありません。ヘイトスピーチじゃないんです。そうではなく、中国共産党政権について・習近平という人物について・一党独裁の中華人民共和国という体制について申し上げているのだということ、まず覚えておいていただきたいと思います。

今世界が向き合っていくところ、進んでいくところはどこかという、20 世紀末に終わったはずの冷戦時代に、21 世紀になって再び突入する。20 世紀末に米ソ冷戦は終わったんです。1991 年 12 月末にソ連が崩壊しました。それまで米ソ冷戦で世界が鉄のカーテンで仕切られて、東側世界と西側世界で対立していたけど、それが終わって、フランシス・フクヤマは「歴史の終わりだ。これで良い世界が来る。」 とんでもないことでしたね。

21 世紀の頭になって、アメリカと中国の間で米中冷戦が本格化しました。

世界は自由主義に付くのか、帝国主義・中国の絶対主義に付くのかということで、また 2 つに分かれていくので、この点については企業の経営者も考えなければならないと思います。
今世界の覇権を握っているのはもちろん、衰えたと言えどもやはりアメリカなんですね。
相対的にはずいぶん衰えたと言っても、やはりアメリカがナンバーワンです。
世界の基軸通貨は元ではない。ユーロでもない。やはりドルなんですね。

衰えつつあるアメリカに対して、中国は今年 2021 年、共産党結成 100 周年ということで大々的にぶち上げましたが、中華人民共和国建国 100 周年が 2049 年です。

つまり、1949 年 10 月 1 日に、毛沢東が天安門広場で中華人民共和国建国を宣言したんですね。
実はその時、毛沢東の話が分かった中国人は殆どいなかった。彼の方言がきつすぎて、何を喋ってるかよく分からなかった。その時、中国には標準語がなかったんです。それで、軍隊でどうにもならないということで、プートンファ/普通語/標準語を決めました。北京の言葉ですが。

それから 100 年後の 2049 年までに、“中国が全人類を教導する 世界に羽ばたく国となる、全人類は中華人民共和国・共産党の支配下に入る”ということを目標に（それを秘密にしてるんじゃないですよ。公にしてますよ、習近平は）、それに向かって進めているわけです。

それを具体的にどうするのか。着々と進めているのですが、その 1 つに一带一路構想があるのです。中国とヨーロッパを帯/ベルトで結ぶと同時に海の路でも結んでいく。シルクロード構想とかナントカ、美しい言葉で言っているのですが。

昔ローマが世界を支配していた時代、“全ての道はローマに通ず”という言葉がありました。
ローマは大変なお金を費やして、帝国の隅々に至るまで道路網ネットワークを張り巡らし、全ての国々から富をローマに集めると同時に、国々のどこで反乱が起こったとしても、最強のローマ軍をこのルート、この道路を使って平定するのです。自分の自由自在に閉じたり開いたり。そして、ローマ皇帝が使いたい時にはいつでも専用道路にすることが出来るルートを持つということが、ローマ帝国支配の成功要因の 1 つでした。中国は 21 世紀のローマたらんとしているわけです。

一带一路構想とは、この 21 世紀の世界、海のルートも陸のルートも全てを中国のコントロール下に置くことで、中国を中心に世界を回すことが出来るというビジョンです。習近平が言い出したんですね。
「いや、空があるじゃないか」と言うかも分かりません。もちろん空港もそうですが、実は世界の貿易の荷物の 98%は海ですよ。船で運ばれてるんです。その海上ルートを全部押さえるというわけです。

ローマ帝国は帝国の中の道路・ルートを完全コントロールしましたが、今世界には 196 の国があります。中国だけが世界にあるんじゃない。中国の国境を超えて隣の国に行ったら、その国の道路・港湾施設はその国の主権国家の下にあるので、中国が自由に開いたり閉じたり出来ません。・・・と思うでしょ。それをやるんですわ。それが一带一路なんです。

一带一路構想を実現するための 4 つのステップがあります。

ステップ 1.

中国と、中東を通してヨーロッパ・アフリカまで繋いで行く中継地点にある発展途上国の人々、特に指導者たちに、「港湾施設造りませんか？/ 国際高速道路の大規模インターチェンジ都市を造りませんか？/ 国際空港造りませんか？それをやったら、貿易潤って・経済回って・失業者も減って・お国がずいぶん豊かになりますよ！やっぱり今の時代は貿易ですよ。大きな港湾を持たないとどうにもなりませんよ！」

「う～ん、しかし金が…先立つ物が無い…」 「私たちが貸しましょう。」

但しお金なので、貸す時に担保無しということはない。貸す時には、返せなかった時に代わりにもらう物

がある。「その担保もないんだけどなあ。」「このお金で造った港湾施設や交通の要所を担保にしたらいいいじゃないですか。今は目に見えないけど必ず出来ますから。」それを担保に乗っかっちゃうんです。

ステップ 2.

これは公共事業なので入札がある。入札が一番安い見積もりで出した所が採用されるのですが、必ず中国企業が入札します。世界のどんな企業も絶対に出せないような価格破壊の、考えられない値段の見積もりを出すので、この話は全部中国企業が取って行くんですよ。値段で勝てないということです。

ステップ 3.

工事が着工すると、3つの“おかしいな”と思うことが出て来ます。

第1番目におかしいのは、ちっとも国内が潤わない。大規模工事なのに、なぜお金が落ちて来ないのか？その工事に必要な資材も労働者も全部、中国から連れてくるんです。だから、その国の労働者が雇われるわけではないし、その国で作っている様々な鉄鋼やセメントなどが使われるのではない。全然地元にお金が落ちない。おかしいなあ。

2番目のおかしいこと。そのうち何やかやと理由を付けて、追加費用を請求するんですよ。

「入札の時、この価格で工事を請け負うって言ったじゃないか。」「掘って行ったら、予期しないような水が出て来ました」「埋め立てても 埋め立てても どんどん沈んで行く。計算外でした」とか。

「契約だから、この価格でやれよ。」「そうですか。じゃあ 投げます。この工事 途中でやめます。」

そしたら、中途半端な残骸みたいな施設、使いもんにならない。結局ね、中国の圧力に押されて高い買い物になります。要求に屈せざるを得なくなるんです。

3番目。中国の軍人が施設の中に入って来る。一帯一路を請け負っている中国企業の建設会社は、人民解放軍傘下の会社なんです。つまり現場監督も軍人。彼らは、中国人労働者もやらないようなタダ働き同然の金で現地の人を雇うことがあるのですが、こき使われますよ。あまりにも酷い労働条件と少ない報酬で（特にアフリカはそうですが）、そんなめっちゃくちゃなことが横行すると、不穏な空気が流れて暴動が起きますよね。暴動が起きないように、人民解放軍の軍人たちは武装してるんです。武器持ってる。

いいですか。これは あってはならないことなんです。独立国家に、よその国の軍人が武器を持ったまま国内に入って活動するというのは、これは主権国家にあるまじきことですよ。アフリカではそれが横行してるから、一帯一路構想のターゲットになっている街では、反中感情が酷いことになっている。

そして、おかしいなおかしいなと思いつつ、“我々は罠に掛かったな”と思い出した時にはもう遅い。

ステップ 4.

施設は完成するけど、発展途上国は返済できないことに気がつく。大体 6.3%以上の高金利なんです。あまりにも高い金利で、結局金が返せない。返せないとなると、担保として、造り上げた公安施設が丸ごと約 100 年リースで中国に取り上げられてしまうんですよ。

一番分かりやすいのがスリランカのハンバントタ港。スリランカの前の政権は親中派でした。

親中派の時に工事の契約が成立して着工したけど、“お金をお返し出来ません”ということになってしまった。その結果 99 年間のリースということで、ハンバントタ港の使用権は中国のものになったのです。13 億ドル掛かったのですが、その内の 11 億ドル以上は中国の融資。返済できないなら約束通りということで、ハンバントタ港は 99 年間中国当局の下に入った。と同時にどうなったか？

今 中国の国旗がたなびいてるんです。つまり、スリランカの人たちに対して、「ええか？ハンバントタ港はスリランカにあるけど、ここは中華人民共和国である。勝手に入んなよ」ということですよ。

こんなことが横行したら、誰もが“債務の罠に掛かったな”というのがハッキリする。

一帯一路で協力・参加した発展途上国はみな、そのように借金で首が回らなくなって、借金のカタに施設を取り上げられてしまうという悲惨な結末が出ている。だけど不思議なのは、それが世界中に知れ渡っているのに、未だに一帯一路に参加する国々が後を絶たないんです。なぜですか？

どこの国にも親中派の政治家がいるからです。日本にもいますよ。与党の中にも！ 自民党の中にも！ 公明党の中にも！ 公明党はトップの人がそうだから。そして、ウイグル人の虐殺に対して非難決議することさえ阻むんですよ。こういうことが今横行しているんです。

さて、このまま行くのかということですが、今世界を悩ませている問題は、やはり新型コロナウイルス蔓延のことだと思います。本来なら、今日は天満橋倶楽部なのに北田辺倶楽部。ずいぶんローカルな、こんなヘンピな所まで来ていただいたわけで。

昨日の段階で感染者 2 億人突破しましたね。1 月 26 日に感染者 1 億人でした。半年余りで倍増してる。ものすごい勢いで蔓延してて、東京では初の 5 千人突破と。それで、どうするんだ?! どうするんだ?!

だけど、感染者の数を見るんじゃなくて、亡くなった人の数を見てたら激減してますよ。

東京では 5 千人突破したと。亡くなった方は 1 人ですよ。大阪も昨日は 2 人です。

もちろん 2 人でも痛ましいことですよ。しかし、どこで見るのか。やっぱり、ワクチン打った後で亡くなっている方は劇的に減っています。菅さん、ポロツカスに、もうポロンポロンに言われて、評論家は言いたい放題。私チェックしたら「おまえ、前言うてたこととちゃうやないか！」みたいに言うんですね。

日本は 9 千万回打ったんです。1 日 1 0 0 万回以上打つと言って、それを実現してるんですね。

そして、打った人は殆ど罹っていない。罹っても重症化しないということです。

しかし、親中派の発展途上国で一帯一路に参加している国々は、ワクチン打ってるけど中国製なんですよ。この中国製ワクチンは別名“水ワクチン”と言われてまして、水打ってるくらいの効き目しかないんじゃないのかと。要するに効かないわけです。

そして、多くの人が命を落とし、命を落とさなかったとしても、緊急事態宣言のようなことが発令されることによって、経済が回らなくなって、次々会社が倒れ、仕事にあぶれ、貧富の差が拡大するけど、上のほうを見ると中国と結びついて全然困ってない。

そんな中で今、中国に対する怒りのデモや暴動が、一帯一路の国々で起こってるんです。

そして、間もなく決定的な事が起こるかもしれない。それは 8 月 2 6 日。注目するべき日だと考えます。

新型コロナウイルスの発生説は、大まかに言って 2 つあるんですね。

1 つは自然発生説。武漢で発生したのは確かである。武漢に生鮮市場があって、コウモリ・クジャク・蚊の目ん玉ばかり集めた物・アナグマ・犬も猫も売られている。

私は武漢の生鮮市場に行ったことはないけど、広東（かんとん）省広州（こうしゅう）の生鮮市場に行ったことがあります。もうね、鳥かごみたいな所に 猫がぎゅうぎゅう詰めに詰め込まれている。

ペットとして売られてるんじゃないんですよ。食材です。犬も猫もクジャクも。

私が一番ビックリしたのはアルマジロ。アルマジロ、食べたいですか? ! もちろん コウモリも売っている。その檻というか籠が もうびっしり！ ひしめいているんですね。

自然発生説は、コウモリの体内にあったコロナウイルスが他の動物に感染して変異を起こし、変異を起こした時に人に感染して、それが世界中に広まってしまったという説です。

もう1つは人工変造説。武漢にはもう1つ厄介な場所、ウイルス開発研究センターがあります。そこで人工的に感染力を強化したウイルスが外にこぼれ漏れて感染したのではないか、という説です。

今年4月までは自然発生説が有力でした。なぜならWHOが自然発生説が有力だと言ったし、バイデン大統領も「化学兵器とか生物兵器とか、そんなことはあり得ないから調査はやめるべきだ」と打ち切った。大統領までがそう言ったので、そんなことはないだろうと思われていたんです。

ところが、5月12日に世界的科学者18人が連名で、世界的権威のあるイギリスの雑誌『Science/サイエンス』に、“人工変造説には一定の信憑性がある。この両面について、改めて調査するだけの価値がある。もしかしたら人工変造説が正しい可能性がある”ということを送ったんです。

それが明らかになった時 全米で大騒ぎになって、「バイデン大統領、調査を妨害するのは、何かやましい事があるんですか？」 息子のハンター・バイデンのことがあったのでね。

そこでバイデン大統領が急遽方向を変えて、“90日以内にこの2つの説を調査して報告書を出すように”と諜報機関に命じました。その90日目に当たるのが8月26日なんです。

もし8月26日にバイデン大統領と諜報機関が、「新型コロナウイルスは自然発生ではなく、中国が生物兵器として作り出した物だ」と言えばどうなりますか？

それだけでなく中国に対する反感が世界中に充満していて、その上、“今世界中を悩ませている新型コロナウイルスは、中国が人工的に兵器として作った物がこぼれたんだ。しかも、それを隠蔽していたのでこんなに蔓延したんだ！”ということになると、3つのことが考えられます。

1) 賠償請求。

世界中の政府・地方自治体・企業が中国共産党を訴えます。国家に対する訴えは成立しませんが、共産党は国家ではなく組織なのでね。賠償額は天文学的になるでしょう。ある人は100兆ドルと。

100兆円じゃないですよ。100兆ドル。言うのは簡単だけど見たことないでしょ。すごい額が請求される。そのとき、中国は一切払いません。必ず言うことは、もう分かっています。「アメリカが持ち込んで自作自演でやってる。」いつもそう言うんです。自分がやったことを「いや、コイツが自作自演でやったんだ」といつも言うから。請け合うことはない。賠償請求に応じることは一切ない。

知らぬ存ぜぬ通しますよ。しかし、その態度を見たとき、世界は余計に苛立つと思いますね。

2) 冬季北京オリンピックのボイコット。

でも、ボイコットは選手たちがかわいそう。開催地を変える。アメリカは「施設がもう揃っているので、ぜひアメリカに来てください」と既に言ってますね。

3) 今まで一帯一路で、顎でこき使われて反中感情でいっぱいになっている発展途上国で、コロナまでもが中国のせいだったのかということが知れ渡ったとき、怒りが爆発して、あっちこっちで中国の施設が襲われることが考えられます。

今南アフリカ全土で大暴動が起ってますが、何が襲われてますか？ 中国の巨大なショッピングセンターでしょ。中国とズブズブの友好国パキスタンで、先月バスの爆破テロがありました。乗っていたのは一帯一路構想の責任者たちです。狙われている。フィリピンのドゥテルテ（大統領）は、中国にずっとしっぽを振ってたけど、さすがに南シナ海の問題で「いい加減にしろ。」フィリピンの一般の人たちも怒ってますね。

ですから8月26日、これは注目です。しかし、もしバイデン大統領が「中国が人工的に作った物ではない」と発表したらどうなるでしょう？ 実はそういう可能性があるんです。

「分からない。はっきりしたことは言えない」と、玉虫色の結論で穏便に終わらせる可能性があります。それを知っているのに、共和党のマスコール下院筆頭理事は8月2日に、「我々は独自のルートで、新型コロナウイルスは中国の手によるものだと示す大量の証拠を握った」と発表したんですね。

ちょっと詳しく見ると、武漢ウイルス研究所は、コロナウイルスについてのデータバンクをオープンにしてたのに、9月12日に全部消えてるんです。データが全部消えてる。その同じ時期、武漢研究所周辺の病院という病院に患者が殺到して、何か伝染病のようなものが突然流行り出したのではないかという形跡がある。これは全部状況証拠で、サンプルを取り出してどうのこうのということではないけれど、我々は他にも、もはやこれは自然発生ではないと言い切れる時期が来てるんだ。その大量の証拠があるんだ。と言っているのです。

なぜ8月26日を待たずにそう言っているのでしょうか？牽制してるんです。実は、共和党はアメリカの情報機関に不信感を持っています。トランプ政権はCIAやFBIにずいぶん困らされたんですね。だから、バイデン大統領の意を汲んで、この点についてあまり突っ込んだことを言わないんじゃないか、と心配している。

しかし、共和党の下院のスタッフたちがそれを持っているということは、情報機関がそれをリークしたということです。じゃあ、どこの情報機関がリークしたのか？アメリカの情報機関は全部で20くらいあります。その中で、一貫して共和党に近い情報機関がDIA。CIAじゃない。DIA。これは米軍の情報機関です。米軍は米中戦争が起こったとき、最前線で矢面に立つ組織です。だから中国に対して甘くない。

このDIA…DIAだと私は言い切ってます。言い切った。さっき。撤回。僕の想像。何かの文書で確かめたわけじゃない。そうじゃないけど、今までの経緯（いきさつ）を見たら、それしか考えられない。わざとリークして、“おまえたちがちゃんとしたことを言わないだったら、別ルートで掴んでいる情報をオープンにして、その結果バイデン大統領の政治的権威は地に落ちるぞ”と牽制している。だから8月26日、バイデン大統領がどういう発表するかによって、今年の秋以降の世界情勢が大きく変わるんじゃないかと思います。

さて、私たちと同じ価値観を持っている自由圏から見ると、中国は今大きな反発を食らっているけれど、しかし中国は、どんなに追い詰められてもビクともしない。実は中国を支える国があるんですね。それがロシアです。

旧約聖書全体を見ると、中国という言葉は1回しか出て来ません。1回でも出て来るん?! 出て来ますよ。イザヤ書に。ヘブライ語で“シニム”という言葉。今“シナ”という言葉を使うと差別用語だと言われる。シナチクのシナ。シナソバとか昔言うた。なんで“東シナ海・南シナ海”は良くて、シナ人だめなんですか？

シナのシは“支”で支店の支。本店じゃないんですよ。つまりね、1つの文字の意味としては、あんまりいい意味持っていない。“ちっちゃい”という意味。支店。分かれ出たもの。少数派。それは嫌なんです。シナの支がこんな言葉なので「使うな!」と言ってる。別に使ったってどうってことない。だけど、日本では放送用語ダメなんです。この間、あるラジオ局に呼ばれて出演したんですが、「満州という言葉は、放送用語に引っかかるから使わないでください」と言われたんです。あそこは中国東北部やから満州国というのは無いということで。中国に忖度して使えない言葉みたいな、そんなんいっぱいあるわ。・・・私、なんでこんな話してたんやったかなあ。ちょっと飛びましたね。

とにかく、中国を支えている国があると。それがロシアなんだということですね。

“シニム” 複数形です。“中国の人たち” という意味でイザヤ書に出て来ますが、この 1 箇所 (*49:12) だけ。

聖書預言はイスラエルと関わる国について詳しく書いてあります。良い意味においても悪い意味においても、イスラエルと深く関わってくる国について詳細な情報が提供される。それがロシアなんですね。

中国とロシア、私たちは正確に正体を見ておく必要があるのではないかと思います。

中国の脅威が大きくなって行ったとき、前のアメリカ大統領トランプさんと、前の総理大臣安倍さんが考えておられたであろう 1 つのことがあるんですね。ご本人たちに来て聞いてみたわけではないから分かりませんが、行動を見ていると、多分そのように考えておられたであろう。それは何か？

膨張していく中国を牽制するために、ロシアを自分たちの側に引きつけようとしていたと思います。

トランプ政権は、発足した当初から、何かとプーチン大統領を持ち上げるようなことを言っていました。

安倍さんもプーチン大統領とは 20 回以上会ってるんですよ。

中国とロシアは隣同士です。世界的に見ると、隣同士で仲良しの国って殆どないでしょ。

隣同士の国って仲悪い。日本と韓国。韓国と北朝鮮。韓国と中国。フランスとドイツ。フランスとイギリス。仲悪い。ロシアの隣は中国。中国の隣はロシア。

世界で一番長い国境線を接していて、中国はロシアよりも軍事力で 4 倍。GDP で 8 倍。人口で 10 倍。今やシベリアの森林地帯に、中国人がどんどん入って来て住み着いている。隣に膨張傾向のある国がいてたら怖いじゃないか。だから、プーチン大統領をこちら側の陣営に引き込むことによって、中国を追い詰めようとお考えになってたのではないかなと思うんです。というのは、歴史上それが一度成功していることがあるからです。

1960 年代に中ソ対立の時代があって（これ詳しく言ったら時間がないのではしよります）、その過程において、とうとう武力衝突になってしまったんです。中国とソ連の国境を流れているウスリー川、その川中島にあるダマンスキー島の境界線を巡って中国軍とソ連軍がぶつかって、中国人民解放軍に多数の犠牲者が出ました。それが起こったのが 1969 年。それを見ていたのがニクソン大統領でした。

トランプ大統領が尊敬している人です。

ニクソンはすぐに懐刀（ふところがたな）のキッシンジャーを遣わして、中国にアプローチします。

「中国よ、あなたにとって我々は資本主義で敵だろう。しかし遠い敵だ。ソ連は同じ共産主義かもしれないけど、実際武力衝突して、島を取られてるじゃないか。あなたにとって、すぐ近くの武力衝突する敵と、海を隔てた遠くにある敵とでは、どちらが脅威ですか？」

ソ連のほうが脅威ですよ。そこで“敵の敵は味方” という論理で、1972 年 ニクソンが中国を電撃的訪問し、毛沢東・キッシンジャーが会うんですよ。

電撃訪問することを、ニクソン大統領自身がアメリカ国民に対して（午後 9 時だったと思いますが）、ニュースの時間に「重大なニュースがあります！聞いてください！」と言ってテレビ中継したんです。アメリカ 3 大ネットワークが全部中継しました。西側の国々はみな、事前に知ってます。

しかし、日本に知らされたのは このテレビ放送の 3 分前。3 分前に日本の駐米大使に（*電話で）「中国訪問するから。」それを訳して、電報が首相官邸に到着する頃にはアメリカ国民のほうが先に知ってる。もうね、完全にバカにされてた。

このときの総理大臣は佐藤栄作です。佐藤栄作とニクソンは仲悪かった。繊維交渉で佐藤栄作が全く動かないことにニクソンは怒ってて、“ちょっとお灸据えたる”と思って、こんなことまですんねん。だから、あんな目に遭った。って、それは知りませんけどね。

とにかく、ソ連を追い詰めるために、ソ連のすぐ近くの中国をアメリカのほうに引き寄せることによって、アメリカは力をずいぶん温存することが出来た。それが 20 世紀のやり方でした。

21 世紀は、ロシアの力を使ってロシアを西側に引き込むことによって、中国を抑え込んで行こうとお考えになっていたのではないかと思います。それは合理性があったからです。軍事費で 4 倍。GDP で 8 倍。人口で 10 倍。国境線がどこよりも長く、冒険主義的・膨張主義的な中国。“オチオチしていたら、ロシアだって中国に寝首掻かれますよ。我々の側に入っている方が安全じゃないですか？”これはこれで説得力のある戦略に見えるけど、どんなに説得力のある戦略だとしても、実際に起こっていることが違うなら、それは撤回しなければなりません。

実は一般論ではなく、実際に中国とロシアの間で起こっていることは、ものすごい結びつきです。ある方によると、ロシアのテレビ局は全部プーチンの言いなりです。プーチンに反対していた 2 つのテレビ局は潰されました。そのロシアのテレビで中国のニュースが流されるとき、どんな紹介のされ方かという、ひと言で言えばベタ褒め。「あんな貧しかった国がアメリカと張り合うようになって。今にもアメリカを追い抜くだろう！」みたいな。「米中の経済戦争でも、アメリカはいつものように自己中心で、自分の意見を押し付けて来るとんでもない国だ。それに対して中国は忍耐強い！」みたいな。とにかく中国の肩入れをするベタ褒めのニュースばかりが、ロシア内では流れています。

更に、プーチンは首脳会談のとき、必ず遅刻するんです。安倍さんの郷里の山口にプーチンが来たとき、1 時間以上遅れて来ましたね。安倍さんだけじゃないです。どこの国の首脳と会うときでも、わざと遅刻する。というのは、偉い奴は後から出て行くんです。プーチンは習近平と 30 回以上会ってますが、遅刻したこと 1 回もない。この一点は大きいと思いませんか？ ドンピシャの時間に来るんですよ。

そして、ロシアと中国は毎年 共同軍事演習をやってます。中国のアジア太平洋戦略に対して、ロシアは完全協力体制です。今でも覚えているのは、今から 10 年前の 311、東日本大震災のときですよ。津波が東北地方を襲って、そのとき一番頼りになったのは自衛隊でしょう。自衛隊が救出活動に出て不眠不休の活動をしているとき、尖閣諸島の上空に中国とロシアの飛行編隊が何回も飛んで来たんですよ。

これが意味するのは、自衛隊の大きな部分が救出活動で使えないような状態のとき、日本の軍事的な対応力はどこまであるのかを探るためにわざとやっている。そのとき、中国だけが動いたのではなくロシアが出て来た。南から中国。北からロシア。そこでアメリカの空母が来たから良かったんですよ。このように、実際に起こっていることを見ると、ロシアと中国は盤石の関係にある。

なぜこんなにも両国が結びついているのか？ 大きく分けて 3 つくらいの理由があると思います。

1) 地政学的理由

両国とも、主要な敵はアメリカだと考えています。中国は自分の覇権を阻むのはアメリカだと考えるし、ロシアはクリミア半島を取って以来、経済制裁を扇動しているのはアメリカだと考えている。ロシアも中国もアメリカに単独で抗うことは出来ないけど、両国が結びつくなら対等の関係に立つことが出来ます。そして、中国とロシアが対立したときの損失と、結びついているときの利益を考えたら、結びついている利益のほうがはるかに大きい。

お互い嫌な面はあるだろうけど、プーチンも習近平も戦略家ですからね。そんなことは横に置くとはいえずねえ。

2) 価値観が一緒

中国とロシアの価値観とは、帝国主義・侵略主義・膨張主義・人権弾圧・恐怖政治・個人崇拜。どれもこれも一緒。政府に逆らう者は殺しても良い。殺しても構わないという感覚。話が合います。

3) 完全な互惠関係

ロシアの天然ガス LNG の第 1 の顧客は、ヨーロッパではなく中国です。一番たくさん天然ガスを送っている。今新たにシベリアを通過する大きなパイプライン“シベリアのカ”を造ってますが、ロシアが中国になんぼで売ってるのかについては極秘なんですね。誰も知らない。つまりね、破格の値段で売っているとされている。その値段知ったらヨーロッパは「なんでやねん！」となるから言わない。破格の値段で送るほどに結びつく価値のある国と評価しているからこそ、そのようにするんですね。

また、プーチンが人権弾圧みたいなことをするたびにヨーロッパはブーブー言うけど、中国はそんなこと一切言いません。互惠関係にあります。そして中国にとっても、プーチンがいる限り、ロシアは中国側にいることの保障になります。プーチンと違う人物が出て来たとき、どういうことを仕出かすのかは中国も読めないわけだから、今の状態が続くのに越したことはない。

ですから、中国にとって一番安心できる体制、それが強権的なロシア。今のプーチン体制です。

中国とロシアは共存共栄で、ひと言で言うと、中国は東に向かい、ロシアは西に向かっているんですよ。中国はアジア太平洋に出ようとして膨張主義。ロシアは地中海からヨーロッパに出ようとして西側に出ている。対立しないように住み分けているんですね。

さて、この大きな流れを考えていくと、聖書が 2600 年前から「終末時代の国際情勢はこのようになりますよ」と言っている情景とよく似ているのです。今日のテーマは『国際情勢をニュースで読む』じゃなくて（ニュースでも読みましたが）、『聖書預言で読む』。

聖書は預言の本です。人類を造られた創造主がおられ、この神は、人類がこれからどこに行くのか全て見えているので、それを前もって預言という形で書き残しているのです。

その 1 つが今から読むエゼキエル書です。旧約聖書のエゼキエル書は 2600 年前に書かれた言葉で、エゼキエルは人の名前です。エゼクは“強める”という意味。エルは“神”。エゼキエルは“神によって強められる・神が強める人”という意味になります。彼は終末時代に起こることを詳しく預言した人物です。

世界の流れを聖書預言で見ると、人類はやがて 7 年間の大変な苦難の時代/患難時代に入ります。

患難時代、恐らく 7 年通して、人口の 3/4 が死に絶えるでしょう。

その患難時代の前に、いくつかの重大な事件が起こります。その 1 つがエゼキエル戦争と言われているもので、それについて詳しく書いてあるのが 38 章なんです。

中身を簡単に言うと、“マゴグの地というロシアが、イランやトルコなどいくつかの同盟国を率いて、再建されたイスラエルに侵略戦争を起こすが、イスラエルの地に入るや否や、8 つの天災で一日にして全滅する。その様子を世界中が見て、エゼキエル書に書いてあるとおりの事が起こったのを目撃することによって、創造主なる神が本当におられることを知り、畏れるようになる。神を信頼するようになる。そういう人々が起こされるようになる”という預言です。

エゼキエル書 38:2

人の子よ。メシェクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。

マゴグの地がロシアの地です。これがロシアである根拠は3つあります。

①マゴグはどこを指すのか。

(*地図 54:14~) ここにカスピ海がありますが昔は閉ざされた湖。海に出口がないんです。

(左に) 黒海。黒い海。なぜ黒海と言うのか? ホントに黒いんです。“海は青いな、大きいな~♪”
ちょっと言うてて恥ずかしくなりましたが…。青く見えるんじゃなくて黒い海。だから黒海/Black Sea。
黒海とカスピ海の間には運河を掘りました。ロシアが。だから、黒海艦隊はカスピ海艦隊に隠すことが出来るし、カスピ海艦隊を黒海艦隊に移すことも出来るし。この2つを海軍基地にしていますね。

マゴグは黒海とカスピ海の間にある土地で、現在はカフカース/コーカサスと言われている所です。

黒海とカスピ海の間から上、北の全部がロシアですよ。マゴグの地はここなんです。

②メシェクとトバルの大首長であると書いてありますね。

メシェクはモスクワの語源と言われていてロシアの首都。トバルはトボリスク、シベリアの中心都市。
ロシアのことを簡単に。ホワイトボードを見ていただけますか。ロシアは3つに分けることが出来ます。
ウラル山脈から西側がヨーロッパ・ロシアで、人口の9割がここに集まっています。モスクワもここです。

ウラル山脈から東側全体がシベリアで、真ん中辺りにバイカル湖があるんですね。世界で一番透明度が高いとよく言われるのですが。バイカル湖を境に西側が西シベリア、東側が東シベリアで、トボリスクは西シベリアの中心でした。

今のロシアは世界で一番大きな国ですが、元々ボリスだったんですね。モスクワという町だけがロシアだったんです。モスクワ大公国というのがロシアのルーツです。モスクワ大公国の前はキエフ大公国というのがあったけど、要するに、モスクワとかキエフの都市なんです。

それがどんどん膨張して、ロシアは一度ジンギスカンの子孫によって250年間国を失い、歴史上地図から消えました。しかしその250年の間に、モンゴル民族から馬に乗っての戦い方を学ばずにはいられない。いわゆるコサックですよ。騎馬民族化するノウハウを取るだけ取ったら逆襲して、再度独立を回復してからは、東に向かってブワー広がって行くんです。広がって行って、海を越えようとしたのが日露戦争。日露戦争で日本がくい止めるまで、ロシアの膨張を誰もくい止めること出来なかったんだから。もう我らの曾じいさん、すごいですよ。ほんとに。

シベリア地区とウラル山脈の西側、この両方を束ねる国は今のロシアしかないんです。

元々ウラル山脈の西側のモスクワという小さな町だけだったのに、この両方を治めるロシアは今のロシアをおいて他にないですね。これが2番目です。

③15.おまえは北の果てのおまえの国から、多くの国々の民とともに来る。

彼らはみな馬に乗る者で大集団、大軍勢だ。

ロシアはイスラエルから見て北の果てなんですね。イスラエルの中心はエルサレムで首都です。

エルサレムから北に向かってまっすぐ目指して行くと、モスクワの上空を通過します。

モスクワはロシアの中心/首都です。イスラエルから見て真北の果てにある最後の王国、それはロシア。なので、マゴグの地にある国はロシアであると言えるのです。

2.メシエクとトバルの大首長である、マゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言せよ。

今まで私は「ゴグと言われているロシアは」と説明して来たんですが、これは、実は正確な言い方ではない。ある方にご指摘も頂きました。ゴグはタイトルです。例えば、エジプトで昔ファラオ いたじゃないですか。太陽という意味ですね。ファラオは王様ですが、個人の名前じゃなくてタイトルなんです。天皇、征夷大將軍、関白、今の言葉なら大統領。ゴグは個人が持っている地位のタイトル名なんです。

つまりここで言っているのは、“終末時代、ロシアに独裁的権限を持つ個人が出て来る。1 人の一存で、自分の国の軍隊だけでなく、よその国々にも命令できるような大きな力を持った独裁的政治家が出て来る”ということです。

ソ連が 1991 年 12 月末に終わって、後継国家でロシアが現れた。ロシアは民主化したはずですが。民主化したら独裁者になれないというのが普通ですよ。初代大統領はボリス・エリツィン (1931-2007)。彼は選挙で選ばれたけど、いきなり資本主義を導入したもんで、ルーブルが紙屑になり、外国資本によってロシアの大事な国営企業が次々買われて、もう人氣が最悪のときに、彼は後継者に FSB (昔の KGB) の長官であったプーチン (1952- /在任 2012-) を選んだんですね。一旦民主的な憲法が施行されたにもかかわらず、プーチンが大統領になってから “憲法改正、憲法改正” ということで、結局民主的な要素を次々と骨抜きに行きました。

日本に 47 都道府県があって それぞれに知事さんがいますが、菅総理が知事を選ぶんじゃない。都道府県の住民が選挙で選びます。ロシアも州がたくさんあって、州知事は選挙でしたが今は違います。プーチンが 1 人で全部選べるように憲法改正しました。選挙管理委員会もプーチンの下にあります。選挙を受ける人と選挙を監視する人物が同一人物なら、どんなことになるでしょう？ マスコミも完全にプーチンの支配下に置かれて。彼は終生大統領でいられるように手筈を整えているわけですよ。

セルゲイ・スクリパリ (1951-) は、ロシア連邦軍参謀本部情報部/GRU (グルー、ロシア読みではゲーエルウー)、アメリカの DIA に当たる情報組織ですが、そのメンバーでありながら、イギリスのスパイをしていました。それが発覚し、懲役 13 年の判決で投獄されていたけど、米ロのスパイ交換交渉に応じて、アメリカ・イギリスとロシアのスパイを交換することが成立し (2010 年)、スクリパリはイギリスのソールズベリーに住んでいました。

2018 年、彼と娘のユリアさんが公園のベンチで、口から泡を吹いていたのです。何事かと調べたらノビチョクというソ連時代に作られた毒ガス兵器・化学兵器でやられてた。それでイギリスが驚いて、250 人の啓示を使って 500 人以上の証人喚問し、ソールズベリー辺りの全ての監視カメラのデータを分析して分かったのは、ちょうどこの事件があったとき、たまたま GRU のスパイが 2 人いた。「たまたま観光で来たんです」って、男 2 人で？ 彼らが泊まっていたホテルを調べたら、ノビチョクが検出された。そしてスクリパリの家を調べたら、大量のノビチョクの成分が出て来た。彼らが歩いた所や、使ったお店からも全部ノビチョク検出。だけどそのときには、この 2 人は既にロシアに帰っていた。

時々そんなニュースが流れて、“こわあ〜！” ってなるじゃない。“あ〜、こわ〜！” だけど皆さん、よく考えてみたらね、独立国家にスパイが入って毒ガス撒くって、戦争じゃないですか。よその国に行って、よその国の国民を毒ガスで殺して「オレ、知らないもん。」これが通用してるのがロシアですよ。

プーチンのメンタリティーは、ヨーロッパに遠慮することなんかない。プーチン自身がインタビューで「我々はローマ帝国の末裔である。」 ロシア国旗のデザイン、ご存知ですか？
正式な徽章が付いているのは双頭鷲です。これは東ローマ帝国と西ローマ帝国を表すローマ帝国の紋章で、それをロシアの印にしている。

今 システムは民主化しているように見えても、限りなく独裁者ですね。一存でどうにでも出来るという体制を作っているのが今のロシアなんです。“民主化して行ったら、そんな人物が出て来るはずがない”とエリツィン時代は思われたけど、実際に起こっていることを見ると、独裁大国化していることが分かるんですね。独裁者が出るというのが1つ不思議なことです。

あと2つ、不思議な点について。

このロシアがいくつかの国を従えて、イスラエルに侵略戦争を起こしますと預言してるんです。でも、ロシアがイスラエルを侵略するためには、イスラエルという国が存在していなければなりません。イスラエルが滅びたのはAD70年。ローマによって滅ぼされて、世界中に散らされて、ずーっと国がなかった。国がない時代には、聖書のこの言葉は実現しようがない。

8.多くの日が過ぎて、おまえは徴集され、多くの年月の後、おまえは、一つの国に侵入する。

そこは剣から立ち直り、多くの国々の民の中から、久しく廃墟であったイスラエルの山々に集められた者たちの国である。その民は国々の民の中から導き出され、みな安らかに住んでいる。

多くの国々の民の中からユダヤ人たちが集められて、イスラエルの山々に住んでいる。
ユダヤ人は世界中から集められて、イスラエルにもう一度国を造るという預言です。

国がなかった時代に、これを明確な方向性として与えた人物がテオドール・ヘルツェル（1860-1904）。彼は1860年にハンガリーで生まれ、作家・記者になりました。彼の本は恋愛小説や不倫に関する本で、どっちかという、軽いというか甘ったるいというか政治色なし。ベタベタと書かれた感じ。ドイツ語で教育を受けてウィーンに行くのですが、19世紀末のウィーンですよ。エゴン・シーレとかの時代で、なんかたかれた…。そういう一員だったのです。

ユダヤ人たちは色々な国で認められ、ようやく同化することが出来ると思っていたけど、フランスである事件が起きました。『ドレフュス事件』です。ドレフュス（1859-1935）はユダヤ人。しかもユダヤ性を捨てたユダヤ人。ユダヤの宗教の守りを完全に捨てた世俗（せぞく）のユダヤ人です。彼はフランス陸軍で参謀本部にまで大出世したのですが、フランスの強敵ドイツに機密情報を流しているという疑いを掛けられました。冤罪だったんですけどね。

「おまえ、フランスの重要な軍事情報をドイツに流してるだろ！」彼は弁解するけど聞いてもらえず、最終的には、公衆の面前で自分のサーベルを取り上げられてポキーン2つに折られ、肩の徽章をガーツめくられもぎ取られ、手袋みたいなヤツでビンタバーンされ、軍人として最低最悪の屈辱を受けて、悪魔島（あくまとう）に島流しされました。悪魔島は南米の沖にある絶海の孤島で、ここをモデルにした映画が後に出来ましたね。『パピヨン』。脱獄・脱出するあのパピヨン。そこに流されてしまうのです。

ドレフュスがスパイの汚名を着せられて罵られているとき、見ていた人たちが皆言ったんですね。「ユダヤ人を吊るせ！」「ユダヤ人を追い出せ！」「ユダヤ人は裏切り者だ！」それを見ていたヘルツェルは驚きました。

個人がやった犯罪なら、“ドレフュスを吊るせ”“ドレフュスを追い出せ”“ドレフュスは裏切り者だ”のように個人が恨まれて当然なのに、フランス人の口から出て来たのは「ユダヤ人は、だから信用出来ないんだ！」

フランスは、フランス革命でヨーロッパで最初にゲトローを取り外し、ユダヤ人を自由にした国です。ユダヤ人に最も理解を示すはずのフランスでさえこうなのか、というのを新聞記者として見ていたのがヘルツェルでした。

彼はこのとき、「ユダヤ人はどんなに頑張っても、ヨーロッパで同化することは出来ない。我々がどんなにヨーロッパ人になろうとしても、向こうの方で迎え入れてくれない。ユダヤ人が生きるためには、ユダヤ人の国を造るしかない」ということで、“シオニズム”という考えを明らかにします。

シオニズムはシオン・イズムのことです。“シオン”は約束の土地のこと。

ユダヤ人は旧約聖書に預言されていたあの約束の地に行かない限り、安全な場所はないんだ！

それで『ユダヤ人国家/DER JUDENSTAAT(ダー ジューデンスタート)』という本を書くんですね。

そして、彼の一番の親友、彼が言うこと何でも理解してくれて、何でも協力してくれる親友に喜んでもらおうと思って、「俺、最近こんな本書いたから、ちょっと聞いてくれ。」

親友の前で朗読したら、「気が狂ったんか？1900年も国無いんやで。今更 元いた所に国造るって、おまえ、気は確かか?!」ヘルツェルにとって一番の理解者である人ですらも、そんな感じだったんですね。

なので、「ユダヤ人は世界中から集まってもう一度国を造ろう」と言ったとき、一番反対したのはユダヤ人たちだったんです。今はもうイスラエルという国が出来ているから、“自動的に、なるようになったんやわ”と思いやすいけど、そうじゃない。

特に誰が反対したかというと、ユダヤ人には2種類あります。

①世俗的ユダヤ人。ヨーロッパ世界で、何とか出世してやって行こうと思っている人たち。

②宗教的ユダヤ人。彼らはメシアを待っている。神がもう一度イスラエルの民を救ってくださると信じているんです。

世俗的ユダヤ人は、「折角ヨーロッパで市民として受け入れられようとしているのに、目立つような余計なこと せんといってくれ。ユダヤ人はおとなしく そこで生きて行ったらいいんや。反対！」

宗教的ユダヤ人は、「イスラエルという国はメシアが来てから建てられるんや。神が建てる国がイスラエルや。人間が建てた国はアカン。」

しかも、ヘルツェルが考えていたユダヤ人国家は、宗教国家じゃなくて民主国家でした。

サンヘドリンがあって大祭司たちが治める・・・そんなん ちゃうんですよ。普通の選挙があって、普通の国のようになろう・・・そんなのは駄目！ 世俗からも宗教のユダヤ人からも反対されたんです。

だけど、賛成したユダヤ人もおったんですね。それはロシアのユダヤ人。彼らは世界で一番迫害されていたユダヤ人です。「ほんまに自分たちの国がない限り、もう無理なんや。」

それで、ユダヤ人国家を造って行くための“第1回シオニスト会議”が1897年、スイスのバーゼルで行われました。最初はミュンヘンの予定だったんですが、ミュンヘンの有力なユダヤ人たちから「迷惑やからやめろ！」と言われてバーゼルにしたんです。そこに200人くらいの世界のユダヤ人が集まって、「我々ユダヤ人の国、聖書が約束している国に帰ろう」と満場一致で採択されました。

この会議の3日後、彼は日記に書きました。「私は今日ユダヤ人国家を造った。ビジョンの中でユダヤ人の国を再建した。早ければ5年後、どんなに遅くても50年後、イスラエルという国は世界に認められて存在するようになるであろう。」

50年後の1947年11月、国連でパレスチナ分割決議案が通り、国連の中でイスラエルの存在が公認されたんです。だから、現代の予言者とも呼ばれてるんですね。

ここに至るために本当に凄まじい…彼は44歳くらいで亡くなりました。あまりの心痛で。彼の命を決定的に縮めたのは、「ウガンダでもいいんちゃう？」と言っちゃうんですよ。このウガンダ案が出たときシオニスト会議が大分裂して、その心痛で、それを言った翌年に心臓発作で亡くなったんです。もうね、ユダヤ人まとめるってね、めちゃくちゃ大変やと思います。

でも、そのときにシオニスト会議で敷かれたレール、第1回シオニスト会議でユダヤ民族基金、〈オスマントルコにある昔ユダヤ人の国があった場所に移民する者には経済的支援をする〉というのを作って、そこから移民が入って行くんですね。それがユダヤ人国家の核となって行ったんです。簡単なことじゃなかった。この国が再建するというのは、20世紀最大の奇跡と言われているんですね。

言いたいことがあったんですけど、時間が来てしまいました。すみません。

ゴグが多くの国々を率いてイスラエルに向かって戦争しますが、彼らはイスラエルの地で、世界中が見ている前で滅びてしまいます。

なぜそのようなことが起こるのが許されるのか？ この戦争には目的があるんですね。

16. おまえ（ゴグ）はわたしの民イスラエルを攻めに上り、地をおおう雲のようになる。
終わりの日に、そのことは起こる。ゴグよ、わたしはおまえに、わたしの地を攻めさせる。
それは、わたしがおまえを使って、国々の目の前にわたしが聖であることを示し、彼らがわたしを知るためだ。

この戦争の一部始終を通して、前もって語られていた聖書の預言が文字通り目の前で実現するのを見た者たちが、これを語られた神は聖なる方で、実在する方で、本当に生ける 目には見えないけれどこの世界を支配する方。その方がおられるということを知るため、神を知るためにこのことが許される。

聖書が与えられた目的をお話して終えたいと思います。
今東京オリンピックで日本人選手が活躍して、本当に勇気を与えられて嬉しいです。
陸上競技でも水泳競技でも、テレビで見ると、泳いでいる選手の前にラインが出て来るんですよ。そのラインよりも前に行ったら世界新記録。でも、泳いでいる人には見えない。あれは視聴者用のサービスで、アスリートがどんなに速いのか、どんな成績なのか、世界記録に届きそうなのか、そういうことをビジュアルで分からせるためにやっているんです。

これ、選手にも見えたらどうだろうという実験が、昨年スペインの世界陸上の中距離・長距離でありました。タイムを出すためにペースランナーが走るときがあるんですね。世界記録並みのペースランナーの動きを（ペースランナー無しで）トラックの内側のLEDを使って、青い筋がシューッと見えるんですよ。その青い筋の先端よりも前に出てると世界記録です。どんなことが起こったかということ、男子も女子も3000・5000・10000で世界新記録。何年も破られてないのがズバーン・ズバーン出るんです。つまり人間は、目標があって、その目標を超えたら異次元に行けると思うとやっちゃうんですよ。ある印があって、それを超えたら世界新記録と思うと、その印に励まされ元気づけられる。

